

シンフォニー

発行/医療法人社団協友会 彩の国東大宮メディカルセンター 編集/広報委員会

〒331-8577 埼玉県さいたま市北区土呂町1522 TEL.048-665-6111 FAX.048-665-6112 http://www.shmc.jp

特集

Feature Articles

質の高い医療を目指して



彩の国東大宮メディカルセンター
院長 坂本 嗣郎

新病院に移転して1年半が経ちました。昨年は救急医療
功労医療機関として埼玉県知事褒賞を授与されました。ま
た地域の医療機関からの紹介も移転前の2倍に達しまし
た。更に日本医療機能評価機構の5年目の更新審査にも合
格しました。臨床研修医の受け入れは年々増加しており、来
年度は8名入職となり、合計15名の研修医を擁することに
なります。更に各科医師を増員し専門医・指導医の体制を強
化しております。

私たちはより一層機能を充実させ、医療の質を上げていく
努力を続けなければならないと考えております。職員数は
800人を超える体制となりましたが、全ての職員がいかな
る時にも、最大限の医療安全を実践できる組織作りが必要
と考えております。

県下の地域医療構想と地域医療ニーズを踏まえ、彩の国東

大宮メディカルセンターの歩むべき

方向は決まっております。基本理念で

ある「私たちはホスピタリティの精神で

患者さまと感動を共有し、高度の急性期

医療で地域に貢献します」ができればと

考えています。そのためには、今一度職員全

員がスクラムを組んで、質の高い医療を目指

し研鑽を積もうと決意を新たにしました。

院内の各部署で各個人が手順や方針を見直

し、エビデンスを踏まえて業務を改善すること、

患者さまへの教育や説明が本場に充分行われてい

るかを検証し、真の医療安全を確保することに取

り組んでいます。このような私たちの取り組みはい

ずれ当院の医療水準を更に引き上げ、世界水準のもの

になっていくことを願っています。新年を迎え私たちは

大変高い目標に向かって走り出しました。心地良いス

タートになりました。ゴールに向かって全員で精一杯頑張

りたいと思います。



緩和ケア
内科



緩和ケア内科 部長 馬場祐康



日本人の死亡原因の第二位は1981年から「悪性新生物(がん)」であり、年間約37万人の方が亡くなっています。がん患者さまは、診断から治療の経過のなかで、がん特有の症状のほか、痛み、倦怠感など身体的症状や、落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛を経験していると言われています。日本緩和医療学会では、緩和ケアのことを次のように説明しています。「緩和ケアとは、重い病を抱える患者さまやそのご家族一人ひとりの身体や心などの

様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケア」と。

今回は当院の緩和ケアについて詳しくお知らせしたいと思います。

当院の緩和ケア内科は、3つの場面で患者さまと関わっています。

1つ目は緩和ケアチームです。毎週金曜日に医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、事務、MSWなど多職種によるチームで、依頼のあった入院患者さまを訪問しております。現在、月10人程度ですが身体の苦痛のほか、精神的苦痛や家族ケアでのご依頼を頂き介入しています。

2つ目は主たる緩和ケア病棟での入院治療です。2015年7月の病院移転を機に、緩和ケア病棟22床(個室10部屋、4人床室3部屋)を開設しました。当初、医師は1名体制でしたが、2016年4月より2名体制となり、月平均稼働率78.2%、在院日数19.4日と、急性期病棟のような慌ただしさとなりました。そのような状況であっても、病棟チーフや認定看護師を中心に、看護スタッフは日々のケアにあたり、穏やかな暖かい雰囲気を作り出しています。その結果、入院された患者さまの25%はご自宅に退院され、苦痛症状の緩和によってその人の生きる力を引き出しているものと考えています。

3つ目は緩和ケア外来です。現在は週4日の予約外来を行っており、院外からの新規紹介を含め、

常時数十名程をフォローしております。がん特有の痛み、呼吸困難感などの症状は急激に悪化することもあり、連携している在宅担当の先生方からの入院要請も増え、適切に対応しております。

一方院内では緩和ケアの普及を図るべく、「PEACEプロジェクトに基づき「医師への緩和ケア研修会」を年1回開催しております。

今後とも、がんという病を持った患者さまとそのご家族に寄り添い、より良い生活ができるように関わっていきたいと思います。

当院の緩和ケアシステム



様々なカタチで緩和ケアを受けていただけます。



よりよい病院をめざして

緩和ケア病棟を知っていますか？

最近、巷で「終活」という言葉を耳にするようになってきました。この言葉には身辺整理だけではなく、最期をどのように過ごしたいか…ということも含まれます。皆さんもご存知のようにこれからの日本は、世界がまだかつて経験をしたことのない多死社会へと突入していきます。

私達はどうしても日頃から「死」を遠ざけ、その言葉を口にする事、話し合うことはほとんどないのではないのでしょうか。それでも、人はこの世に生まれた時から、いつかは別れの日が来る事は決まっています。近代医学の発展によって、新たな治療法が生み出されても死を回避する事は残念ながら誰にもできません。

当院には、さいたま市で初めて開設された緩和ケア病棟があります。緩和ケアとは、「身体と心の苦しみを和らげ、最期まで人間らしく尊厳をもちながら、その人らしく生きることを支える」を専門としています。しかし、多くの方々が「何もしてもらえない場所」「最期に行く場所」という認識を持っているのが現実の様です。しかし、徐々に出来なくなっていく日常生活の中でも一緒に小さな喜びを探し、心の苦しみに寄り添うことで生きている実感を取り戻す事も出来るのです。そして再び自宅へ戻って生活する為に、理学療法士や医療相談員など様々な専門職と連携し、残された時間をどこでどのように生きるかを皆で考えていくのも緩和ケアの出来ることです。

先日退院されたある患者さまとご家族から「自分と家族の心まで手厚くケアしてもらえて本当に嬉しかった。家に帰っても、いつかここで最期を迎えられるのだと思えば何も怖くない。」と笑顔で語って下さいました。病気だけを診るのではなく、生きてきた背景を大切にしながら、人間そのものを看させて頂くのが緩和ケアです。私達は医療だけではなく、人の持つ想いが生きる力を支えていく事を患者さまから日々教えて頂いています。「自分らしく生き抜く場所」として、緩和ケア病棟があたり前のように選ばれる日が来る事を願い、人間対人間のケアを大切に提供させて頂いています。



緩和ケア
認定看護師
河野 佳代



「摂食嚥下障害 予防・改善への取り組み」

(せっしょくえんげしょうがい)



「摂食嚥下」という言葉をご存知ですか？摂食嚥下を簡単に言うと「食べること」「飲み込むこと」です。食べ物を口に運んで食べる、飲み込むという一連の動作のうち、どこかがうまくいかないことを摂食嚥下障害といいます。摂食・嚥下障害看護認定看護師とは、現在うまく食べられず悩みを持つ方や、摂食嚥下障害を予防したい方のために活動する看護師のことです。

対象者は赤ちゃんからお年寄りまで幅広い世代の方々です。病気をきっかけに嚥下障害になるケースもあり、その原因により対処法も多岐にわたります。

そこで当院での取り組みについて紹介します。摂食嚥下障害患者さまへの食事介助に、最前線に関わる看護補助者に対し、月1回の勉強会を行っています。例えば、「嚥下障害のお食事」をテーマに、ミキサー食の試食、とろみつきのお茶の試飲、とろみつきのお茶で薬に見立てたラムネを飲み込む体験をしました。どんなに美味しい食事を作っても、ミキサー食にすることで味気なく感じます。また、飲み物はとろみがつくことによって、香りや風味を感じにくくなってしまいます。同じ技術で食事介助をするにも、患者さまの気持ちを、身を持って体感しておくことで、より親身になれると思います。今後も「介助のコツ」「食事と姿勢」「補助栄養」などのテーマで勉強会を進めていく予定です。

また、入院患者さまの中には、普段は近隣の介護施設に入所されている方も多くいらっしゃいます。そして、退院し施設に戻っても、すぐに体調を崩し再入院するケースもよくみられます。今後は、そのような状況の減少を目指し、近隣の施設と連携をとって、入退院時に食事形態や介助方法をきめ細やかに伝達し合えるように、取り組んでいこうと考えています。

摂食・嚥下障害
看護認定看護師
岩河 優子



患者教室のご案内 (ミニセミナー)

1月のスケジュール

新年おめでとうございます。
今年も「自分で出来る健康管理」を多数計画していきます。

- 19日(木) 狭心症のくすり
- 23日(月) 家族ががんといわれたら ~知っておきたい心のケア~
☆がんだけではなく、多くの患者さま家族が抱える問題です。
家族で受け止め支え合うため、知って頂きたい知識です。
- 24日(火) 糖尿病教室 ~新春講演会 最近の話題~
☆糖尿病の最新の話をお届けします。

2月のスケジュール

もうすぐ春です。寒さに負けない体調管理をしましょう。

- 15日(水) 冷え対策 ~食べてポカポカ温まろう~
☆食事から体の冷え改善。知っている则便利です。
- 16日(木) 花粉症のくすり
☆そろそろ花粉症が気になる時期になりました。
花粉症の薬についてお伝えします。
- 28日(火) 糖尿病教室 ~身近にあり検査アイテム~
☆SMBGの話のほか、体重測定・体脂肪・歩数計・尿蛋白試験紙等、
身近にあるものを紹介します。

数字アラカルト

(平成28年8~11月)

- 入院稼働率 92.5%
- 1日平均入院患者数 311.7人
- 平均在院日数 14.6日
- 1日平均外来患者数 646.8人
- 救急搬送件数 550件
- 手術件数 274件
- 紹介患者数 916件

興味のあるセミナーに、
ご自由にご参加ください。

場所

2F エデュケーションセンター

時間

13時~

交通案内図



JR
宇都宮線・湘南新宿ライン・上野東京ライン
「土呂駅」東口より 徒歩約11分

東武アーバンパークライン
「大宮公園駅」より 徒歩約9分

自動車
首都高速埼玉新都心線「さいたま見沼」ICより 約18分
東北自動車道「岩槻」ICより 約21分



あけましておめでとうございます。今年もさらなる質の向上に向けて、新たな試みを職員一丸となって取り組んでいきます。どう変化していくのか見守って頂ければと思います。
今年もよろしくお願い致します。